



MONEX GROUP

マネックスグループ株式会社

2023 年 3 月期第 3 四半期決算 アナリスト向け説明会

2023 年 1 月 30 日

イベント概要

[企業名]	マネックスグループ株式会社		
[企業 ID]	8698		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2023 年 3 月期第 3 四半期決算 アナリスト向け説明会		
[決算期]	2022 年度 第 3 四半期		
[日程]	2023 年 1 月 30 日		
[ページ数]	38		
[時間]	18:00 – 18:52 (合計：52 分、登壇：35 分、質疑応答：17 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]	500 m ²		
[出席人数]			
[登壇者]	2 名		
	代表執行役社長 CEO	松本 大	(以下、松本)
	取締役兼代表執行役 Co-CEO 兼 CFO	清明 祐子	(以下、清明)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[アナリスト名]*	SMBC 日興証券	原 貴之
	UBS 証券	岡田 大毅

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



登壇

松本：マネックスグループの2023年3月期第3四半期の決算発表になります。私、松本と。

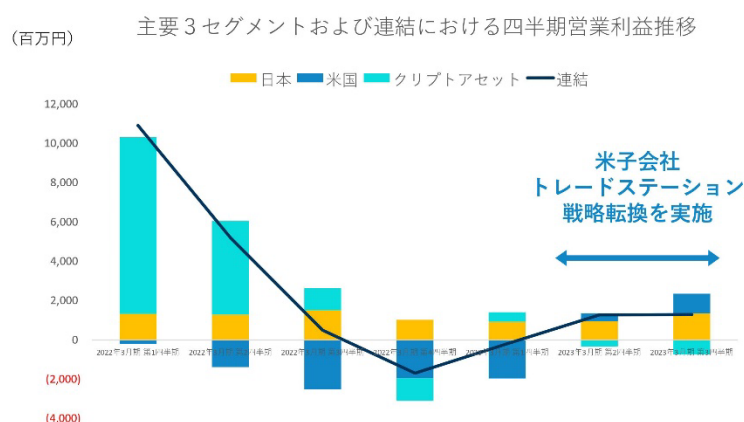
清明：清明でございます。

松本：で、ご案内いたします。最初に私から概観をお話しして、そのあと清明から業績についてお話しして、最後、私またビジネスとかちょっと説明していきたいと思います。

四半期営業利益推移（主要3セグメント）

MONEX GROUP

米国セグメント（トレードステーション）は2022年8月の戦略転換以降、営業利益が大幅改善。今後は、安定推移の日米証券事業に加え、暗号資産市場回復時にはクリプトアセット事業が利益のアップサイドポテンシャルを持つ。



主要3セグメント

- **日本セグメント**
安定的に利益確保
- **米国セグメント**
金利上昇による金融収支増加
および費用削減で大幅に収支改善
- **クリプトアセット事業セグメント**
低調な市場の影響で足元取引減少

日米証券事業において安定的に利益を創出しつつ、暗号資産市場回復時に大きな利益獲得を見込む。

4

まず、4ページを見ていただきたいんですけども、四半期別の主要3セグメントの営業利益を表しております。

トレードステーションのDe-SPAC上場に向けて、幅広に多くのお客さんを取っていかうという戦略を取った結果、支出が進んで赤字が進んだと。それを去年の夏に戦略の変更をして、もともと得意であったアクティブなお客様にリフォーカスすると。プラス金利が上がってくことで、ご覧いただくと分かるように、この濃い青色の部分、一旦、赤字にいったものがしっかりと黒字になって、さらに伸びています。

黄色い部分、日本セグメントについては、アセマネモデル化が着々と進んでおりまして、底堅く利益が増えている状況。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



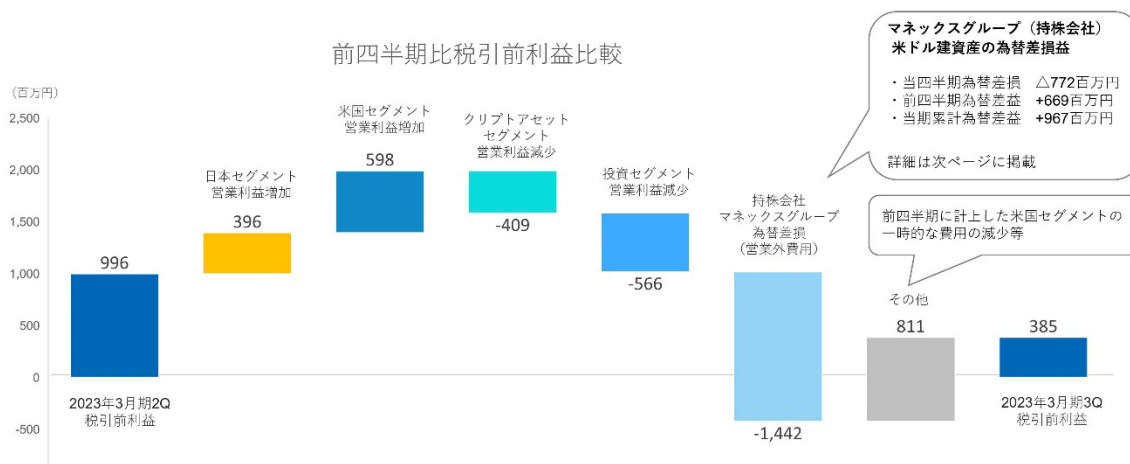
それに対してコインチェック、このペパーミントグリーンのところがぶれが大きいわけですが、大きな利益が今、一旦下がって赤字になっている。

この安定的に増えている日本セグメント、戦略の転換と金利の追い風で大きく伸びているアメリカのセグメントの上に、コインチェックが競争相手が減っていくとかそういうのもありまして、グローバルに今後、ブロックチェーン、web3、暗号資産のところでぐんと大きく伸びるチャンスがあると思っています。当社グループは、コインチェックという「コールオプション」のようなものに乗っている感じの事業ポートフォリオになっていると言えると思います。

連結税引前利益（前四半期比：2023年3月期第2四半期、第3四半期）

MONEX GROUP

日米セグメントのオンライン証券事業は、金利上昇や活況なFX市場の影響を受けて営業利益が増加。円高進行により持株会社の米ドル建資産は当四半期に為替差損を計上するも、当期1-3Q累計では、為替差益を計上。今後、米ドル建資産のポジションを解消予定。



5

5 ページが、税引前利益の階段チャートみたいになっています。

前四半期に比べて日本セグメント、米国セグメント、後ほど清明から詳しく説明がありますが、それぞれ4億円、6億円程度の利益を伸ばしました。

コインチェックに関しましては、FTXとかそういうものもございまして、マーケットが静かになった、あるいは暗号資産の値段が下がっていった、1月から戻ってきていますけれども、そういう中で、やはりトップラインが下がって赤字になっています。

投資セグメントでの評価替え等がありまして、あと次のページで詳しく説明しますが、為替差益があったものが、この3カ月間は為替差損がある。そういったことで大きく前四半期に比べると営業外での費用が立ちまして、結果としてこの第3クォーターは、3億8,500万円の税引前利益となっています。

サポート

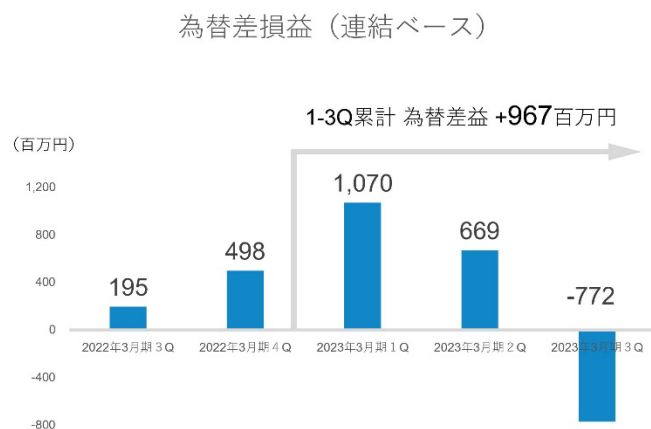
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

この為替差損がなかりせば、主要な日米ではしっかり伸びていて、クリプトが若干赤字であるといった形になっています。

四半期為替差損益推移

MONEX GROUP

当期は為替変動により為替差損益が大きく変動したものの、保有する米ドル建資産ポジションは解消予定であり、今後の為替変動による損益影響は限定的に。



2023年3月期3Qまで

・ マネックスグループ（持株会社）は運用資産の売却や配当受入で得た米ドル資金をグループ間資金融通に活用することで外部借入を抑制し金利支払いを最小化。

・ 米国金利上昇局面では為替も円安傾向が続き為替変動による為替差益も発生（2023年3月期1-3Qで967百万円の為替差益を計上）。

2023年3月期4Q以降

・ 今後の米国金利の見通しおよび為替相場を踏まえ、為替変動による損益影響を極小化すべく、米ドルポジションを概ね解消予定。

6

為替の部分、6 ページになります。

従来マネックスグループ全体では、あまり PL に出る形での為替のポジションを持たないできました。実質的には、トレードステーションを半分ぐらい為替やノーヘッジで持っているのです、これは1ドル80円ぐらいのころからです。

OCI、Other comprehensive Income に大きなアンリライズドの為替差益がある形になっているんですけども、通常の PL に出る形では為替のポジションを持たないようにしてきましたが、1年ほど前に米国セグメントとの関係で、持ち株会社であるマネックスグループに、PL に出る形での米ドルのポジションを持った形になりました。

それが、そのあとアメリカが金利を上げていく中で、ドルが強くなっていく等々の中で、オープンのポジションとして為替差益を稼いできたというか、これを減らすとその分ドル需要は当社グループ内の中ではあるので、この為替のポジションをなくすと逆にドルを借りて事業に回す形になる。金利コストが発生するのですけれども、そういうのを全て考えてこのオープンの為替のポジションを取りましたが、この第3四半期に大きく為替が円高にぶれたことでこの第3クォーターでは為替差損が出ました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



引き続き当期9カ月累計で見ると10億円近くの為替差益がある形になっています。しかしながら、若干今後の為替、ドル円の動向等が分かりにくいと今思われるので、そのようなリスクを取るのが当社の本業ではないので、この為替のポジションについてはもう閉じ始めております。

もうスケジュール化されておりまして、グローバルに経営しているので、どうしてもそういうポジションは少しあったりするんですけど、基本は近々、オープンの為替ポジションはなくなるようになっております。

金利影響と広告宣伝費の推移

MONEX GROUP

金利影響

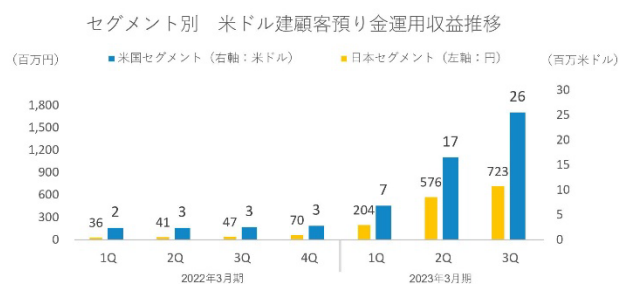
マネックス証券およびトレードステーションの米ドル建顧客預り金の運用益は当社グループに帰属。米国金利の上昇が続く中、米ドル建顧客預り金の運用益は増加。

米ドル建顧客預り金
日本セグメント※1

米ドル建顧客預り金
米国セグメント※1

約**7億米ドル** (2022年12月末時点) 約**28億米ドル** (2022年12月末時点)

※1 各セグメントでは米ドル建顧客預り金の一部を変動金利または固定金利にて運用。

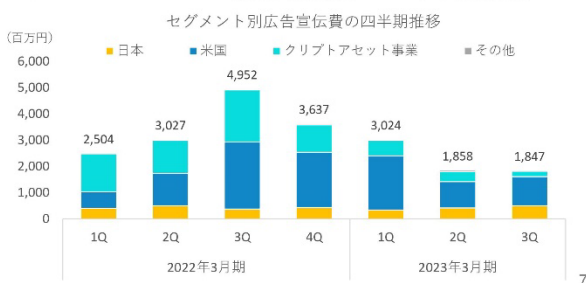


※2 米ドルの顧客預り金運用収益は会計上、米国セグメントでは主に「金融収支 (P17)」に、日本セグメントでは「金融収支 (P15)」および「トレーディング収益 (P15: FX/債券関連収益)」に含まれる。

広告宣伝費

米国セグメントは戦略転換により広告宣伝費を抑制。クリプトアセット事業も顧客基盤維持を意識しつつ市場環境に合わせて大幅に削減。

広告宣伝費	2022年3月期 3Q (前年同四半期)	→	2023年3月期 3Q
米国	2,548百万円 23百万米ドル	→	1,103百万円 8百万米ドル
クリプトアセット事業	1,992百万円	→	214百万円



7 ページ、当社グループの今期の数字を見る上で、やはり金利の問題は大変大きくて、ここで分かるように日本セグメント、米国セグメントそれぞれで第3クォーターだけで、日本セグメントで7億円以上。米国セグメントで2,600万ドルですから、30億円以上になろうかと思えますけれども、この金利の収益がある形になっておりまして、これが追い風になっております。

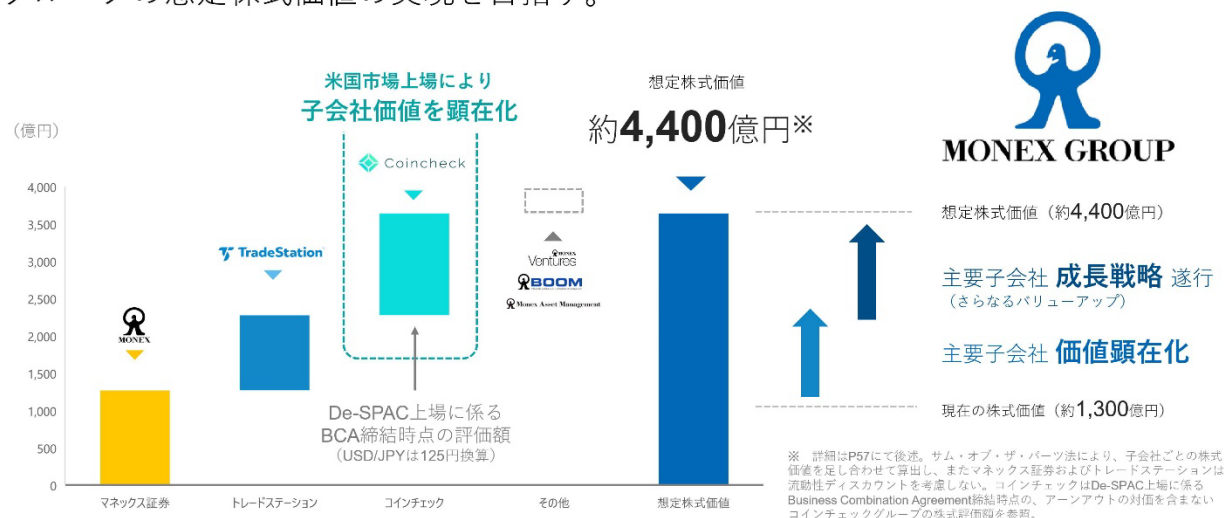
右側は、そういうプラスのニュースがある一方で、しっかりとコストは管理していこうということで、アメリカの戦略転換に伴って広告宣伝費を大きく下げたりとか、あるいはクリプトアセット、コインチェックにおいては相場の状況に合わせて、やはり広告宣伝費を大きく絞ったりとか、そういったことをダイナミックにやっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



子会社の価値を顕在化し、各社における成長戦略を着実に遂行することで、グループの想定株式価値の実現を目指す。



8

8 ページは、SOTP 的に当社の想定株式価値を計算しております。

マネックス証券とトレードステーションは、それぞれの利益とか収益を基に比較会社とのコンパブルで計算をしております。コインチェックについては、昨年 3 月に締結した De-SPAC 上場するための Business Combination Agreement で合意をした数字を基に、そのときの為替を使って価値を計算しております。

これは M&A の契約であるので、そのままの数字でここでは書かせていただいております、それを全部足し合わせると 4,400 億円で、今の当社グループの時価総額から大きく乖離していると。これについてしっかりと価値を顕在化し、しっかり成長戦略を実行していくことで、われわれの今の時価総額をこの想定株式価値に近づけていきたいと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

グループ全体のクリプト関連事業に対し、適切なリスク管理を実施。

- ポジション・エクスポージャー管理
当社グループ企業は、
基本的に売却益の獲得を目的としたクリプト関連の自己勘定投資は行わない。
- 適正なリスクモニタリング
市場動向やカウンターパーティリスク等を把握し、リスク量を日次で管理。
また、リスクが顕在化する前に暗号資産貸出取引を停止。
- 顧客資産分別とウォレット管理
法定通貨は信託銀行で分別保管し、一定額を超える暗号資産については
コールドウォレットで保管。
- 強固なガバナンス体制
各子会社は個社のリスク管理に加え、グループの統合リスク管理の対象となる。

9

9 ページ、クリプトに関しては、去年の 11 月の FTX の事件以来、多くの会社が FTX もしくはそれに付随する会社のチャプター11 をファイルするとか、いろいろな形で損を出しています。

当社グループにおいてはここにありますように、しっかりとリスク管理をしております。レンディングビジネスとかにつきましても先回りして閉じるとか、そういったことをしておりまして、FTX の事件のあおり、連鎖的にいろんな会社に影響が出たわけですが、それらのダイレクトな影響は一切当社グループにはございません。

もちろん、これは FTX の事件がきっかけで冷えてしまったマーケットによって、当社グループでの暗号資産の売買件数が低く下がっていることの影響はございますけれども、バランスシート上の事故、ダメージは一切ない形になっております。しっかりとリスク管理をしてきております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

本年6月の株主総会以降の経営体制強化*について公表。

- 第19回定時株主総会終了後、以下の新経営/執行役体制をスタート予定。
松本大 : 「代表執行役社長CEO」 → 「代表執行役会長（取締役会議長）」
清明祐子 : 「代表執行役Co-CEO兼CFO」 → 「代表執行役社長CEO」
- 新たな執行体制の構築により、
持続的かつ長期的な企業価値向上への道筋を強固に。

* 2023年6月開催予定の第19回定時株主総会終了後、正式に承認される予定

10

10 ページは、今月の頭、1月4日に発表しておりますけれども、経営体制について。

現在、清明と私と2人とも代表権を持ちCEOとCo-CEOというタイトルで経営をしておりますけれども、総会終了時をもって私が代表権を持つ会長兼取締役会議長。清明が代表執行役社長CEOという形で。

サクセッションというか、私も24年間この会社を創業して経営しているわけですが、われわれBtoCの会社であり、お客様の潜在顧客層の中心平均年齢は、それほどには1年1歳も年を取るわけではなくて、1年0.3歳ぐらいしか、日本国民の平均年齢とか歳をとらないわけです。私は1歳ずつ歳とっていき、創業のときは私の年齢は潜在顧客層の中心からマイナス5歳だったんですが、今、プラス11歳になっているんですね。清明だとマイナス3歳ぐらいになるんですけれども。

スタッフもやはり新卒をしっかりとっているんで、あまり中心年齢は歳をとらないのですが、そういう中で、やはりBtoC、お客様を一番大切なステークホルダーとしてビジネスをしている当社として、Day to Dayの判断をして経営をしていくCEOは、年齢的にもっと若いほうがいいだろうという考えがあり。一方で、取締役会で決める内容につきましては、私が引き続きしっかりと関わっていくと。

これはもう10年以上マネックスグループのボードで議論をしてきたことで、4年前に、清明はマネックス証券の代表取締役社長になり、3年前にマネックスグループのCOO、2年前にCOO兼、

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



CFO、1 年前に Co-CEO 兼 CFO というようにずっと進めてきておりました。今回このような形でしっかり役割分担をして、今後のマネックスグループの経営をしていこうという方針を決めております。

それでは、このあとは業績について清明から説明をさせていただきます。

2023年3月期第3四半期（3ヶ月）

MONEX GROUP

日本セグメントの安定的な利益創出や米国セグメントの業績改善がクリプトアセット事業の収益減少をカバー。連結税引前四半期利益は**4億円**。

日本

FX市場の活況や米ドル建預り金運用益が伸長し、営業利益**14億円**。マネックスグループ（持株会社）が保有する米ドル建資産の為替差損**8億円**が発生し、セグメント利益※は**6億円**。

米国

第2四半期以降の収支改善施策が進捗。また戦略転換に伴う前四半期の一時的な費用もなくなり、セグメント利益は当期初の四半期黒字となる**10億円（前四半期比+21億円）**。

クリプトアセット

暗号資産市場の低迷が続いた影響で取引量が減少し、セグメント損益は**△7億円**。

アジア・パシフィック

低調な市況の影響で株式取引量が減少し、セグメント損益は**△1億円**。

投資

投資先株式の評価損を計上し、セグメント損益は**△3億円**。

※ セグメント利益/セグメント損益 = 税引前利益/損益。本資料中以下同様。

12

清明：私からは、第3四半期 2023 年 3 月期第3四半期の業績につきましてご説明申し上げます。

まず、こちらハイライトになります、12 ページでございます。

当四半期は、米国の金利上昇により、日米のセグメントで米ドル預かり金の運用収益の増加、それから FX のビジネスが活況だったことにより、日本セグメントで FX 収益の増加があったこと。これらが連結収益に寄与したものの、引き続き暗号資産市場が低調だったこと。ならびに先ほど松本からもご説明申し上げましたが、日本セグメントにおきまして為替差損 8 億円を計上したこと。これらを踏まえ、連結の税引き前四半期利益は 4 億円となっております。

セグメント別に見ますと、日本は安定している。それから米国につきましては、戦略転換の成果がございまして、大きく利益が向上しております。前四半期比でセグメント利益 21 億円プラスで、この四半期は 10 億円のセグメント利益を計上しております。

クリプトアセット事業セグメントは、市場低迷の影響でセグメント損失。それから、アジア・パシフィックセグメントも、市場の影響を受けましてセグメント損失。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



投資セグメントにつきましては、複数の投資先、ダウンラウンド調達による評価損の計上がございます。セグメント損失になっております。投資セグメントは後ほど少しご説明申し上げます。

前四半期比（3ヶ月）実績（連結）

MONEX GROUP

（百万円）	2023年3月期 2Q (2022年7月-9月)	2023年3月期 3Q (2022年10月-12月)	増減額	増減率(%)	参照先
金融費用及び売上原価 控除後営業収益	18,513	18,072	△441	△2%	日本、米国（米ドル）、クリプトアセット事業セグメントの分析P15、17、19
販売費及び一般管理費	17,226	16,775	△452	△3%	日本、米国（米ドル）、クリプトアセット事業セグメントの分析P16、18、20
うち広告宣伝費	1,858	1,847	△10	△1%	
営業利益相当額	1,286	1,297	+11	+1%	
その他収益費用（純額）	△291	△912	△621	-	
税引前四半期利益	996	385	△611	△61%	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	295	687	+393	+133%	
E B I T D A ※	3,525	3,413	△112	△3%	

※ EBITDA＝営業利益相当額+減価償却費+支払利息（米国セグメント以外は、支払利息を含まない）以下、同様。

T3

次に 13 ページ、前四半期との比較での損益の状況でございます。

まず、当四半期金融収益費用および売上原価控除後の営業収益ですが、前四半期比 2%減の 180 億 7,200 万円となりました。クリプトアセット事業セグメントが市場の影響を受けまして厳しかったものの、2%減と微減にとどまっております。

一方、販管費につきましては、各セグメントにおきましてコストをコントロールしており、前四半期比 3%減の 167 億 7,500 万円となっております。これらの結果、税引前四半期利益は 61%減の、3 億 8,500 万円。EBITDA は前四半期比 3%減の 34 億 1,300 万円となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



前四半期比（3ヶ月）実績（セグメント別）

MONEX GROUP

(百万円)	日本		米国		クリプトアセット 事業		アジア・ パシフィック		投資事業	
	2023/3 2Q	2023/3 3Q	2023/3 2Q	2023/3 3Q	2023/3 2Q	2023/3 3Q	2023/3 2Q	2023/3 3Q	2023/3 2Q	2023/3 3Q
金融費用及び売上原価 控除後営業収益	7,744	8,262	8,912	8,998	1,563	1,063	263	255	248	△314
販売費及び一般管理費	6,782	6,904	8,508	7,996	1,890	1,799	320	294	21	24
うち広告宣伝費	418	505	1,002	1,103	382	214	62	30	-	0
営業利益相当額	962	1,358	404	1,002	△328	△737	△56	△39	227	△339
その他収益費用（純額）	1,356	△798	△1,505	△18	△63	△12	1	△32	△0	1
税引前四半期利益	2,318	561	△1,101	984	△391	△748	△56	△71	227	△338
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,572	400	△1,162	1,176	△207	△576	△54	△66	148	△244
E B I T D A	2,124	2,530	1,618	2,388	△220	△615	△21	△7	227	△339
備 考	金融費用及び売上原価控除 後営業収益はP15、販管費 はP16に増減分析を記載		金融費用及び売上原価控除 後営業収益はP17、販管費 はP18に増減分析を記載		金融費用及び売上原価控除 後営業収益はP19、販管費 はP20に増減分析を記載					

T4

こちらセグメント別に見ますと、日本および米国のセグメントが増収となっております。まず収益側ですね。

一方、クリプトアセット事業セグメントは、市況の影響で収益が伸びなかったということになっております。

投資セグメント、こちら収益でマイナスになっております。投資セグメントは主に、マネックスベンチャーズの投資活動がこちらの投資事業セグメントで表れているんですけれども、この投資事業セグメント、私どもはIFRSを採用しておりますけれども、毎四半期、時価評価で評価洗替をしております。

例えば、アップラウンド、バリエーションが上がって調達した場合には評価益になる。もしくは昨今の事情で、ダウンラウンド調達になった場合には評価が下がる形で、常に四半期ごとに評価替えをしております。

したがって、投資先は100社ぐらいあるんですけれども、これらを全て四半期ごとに評価を見直しており、複数の会社で評価益が上がったり評価損が上がったりを組み合わせ、この四半期につきましてはマイナスが大きく出て、3億1,100万円の営業損失になっております。

なお、投資額自体は100社ぐらいに投資しておりますけれども、一つ一つはしっかりとリスクを分散させる形で、大きくない金額の投資をしております。アップラウンドがあれば評価益、ダウンラウンドがあれば損という形で、常に見直している結果でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



利益面につきましては、営業利益でご覧いただきますと、日米セグメントが増益となっております。特に米国セグメントの利益が拡大しております。戦略転換が奏功した形になります。それから日本セグメントにおきますその他の収益費用で、マイナス 7 億 9,800 万円と出ておりますけれども、こちらが先ほどのご説明にもありました、為替差損になっております。

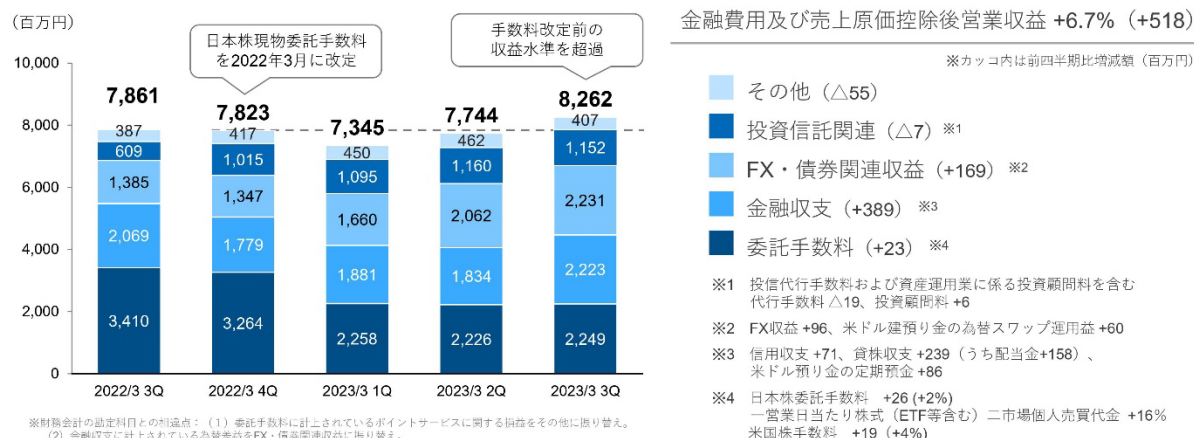
マネックスグループ、保有しております米ドル建てのポジションにおきまして、円高がこの第 3 四半期進んだことにより、為替差損が発生している形になります。

前四半期比（3ヶ月） 収益増減分析

MONEX GROUP

日本：為替相場の変動によるFX収益の好調に加え、金利上昇に伴う米ドル建預り金運用益の増加により、**収益全体では日本株現物手数料改定前の水準を超過**。

■金融費用及び売上原価控除後営業収益 5四半期推移



それでは、主要 3 セグメントにつきまして収益と費用をもう少し詳しく見ていきたいと思います。まず、日本セグメントの収益でございます。

こちらのグラフの下からご覧いただきますと、まず委託手数料、日本株、米国株ともに前四半期とほぼ横ばいになっております。一方、金融収支のところ、下から 2 段目、前四半期比で 3 億 8,900 万円の増加となっており、これは米国の金利上昇に伴うものになります。

それから更に、FX・債券関連収益も 1 億 6,900 万円の増加となっております。FX の収益が活況だったこと等が要因となっております。これらを踏まえ、営業収益全体では前四半期比約 7% 増の 82 億 6,200 万円となっております。

こちら点線でございますけれども、日本株の手数料体系を大幅に引き下げたのが 2022 年 3 月です。それ以降、それまでもアセマネモデルを進めてきている結果、この四半期につきましてトータルの収益で見ますと、委託手数料は日本株の手数料の引き下げで大きく減ったんですけれども、そ

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

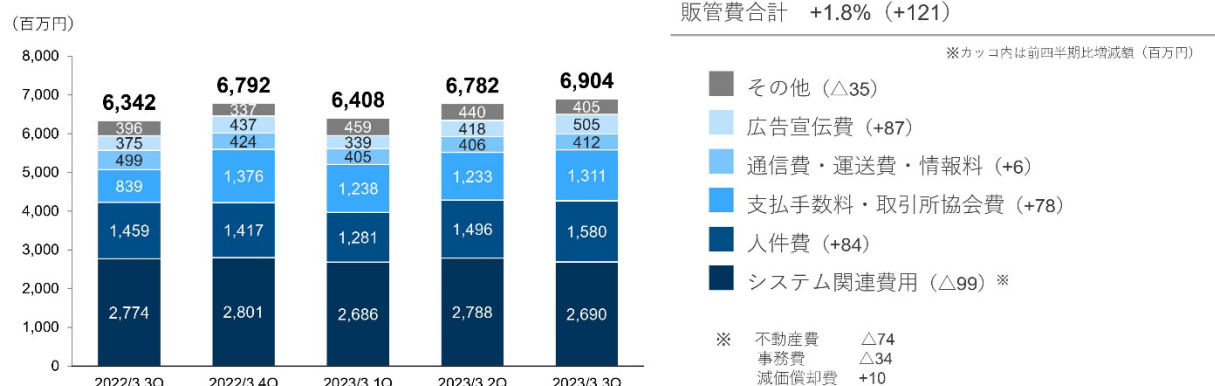
の他の収益が伸び、結果的に収益トータルでは手数料引き下げ前の水準を超過した形になっております。

前四半期比（3ヶ月）費用増減分析

MONEX GROUP

日本：金融商品仲介ビジネスやクレジットカード積立等の新規事業の伸長により一部費用が増加しているものの、費用は全体的に適切にコントロール。

■販売費及び一般管理費 5四半期推移



16

費用は、概ね全体的にしっかりとコントロールできているとは思っております。前四半期比2%増の69億400万円となっております。広告宣伝費が増えておりますのは、ポイントサービスの促進がございまして増えております。

それから金融商品仲介ビジネスが伸長していることもございまして、これは新生銀行様との連携ですとか、あるいはIFA、プライベートバンクビジネスですけれども、こちら支払手数料がそれらの結果、増加しております。これらにつきましては成長戦略が進捗している結果と考えております。

サポート

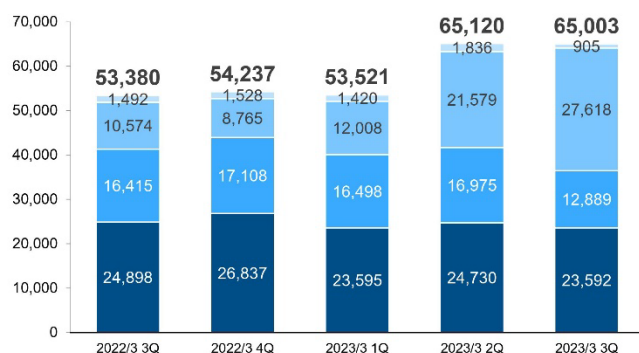
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



米国：株式とオプション取引の減少により、手数料収益が減少したが、米国金利上昇で金融収支が大幅に増加し、収益全体では前四半期の水準を維持。

■金融費用及び売上原価控除後営業収益 5四半期推移

（千米ドル）



金融費用及び売上原価控除後営業収益 △0.2% (△117)

※カッコ内は前四半期比増減額（千米ドル）

- その他 (△931)
 - 金融収支 (+6,038)
 - その他受入手数料 (△4,086) ※
 - 委託手数料 (△1,138) ※
- ※ VIX日次平均：24.7 → 25.1 (+2%)
 DARTs（全体）：210,879 → 203,764 (△3%)
 DARTs（株式）：△8%
 DARTs（オプション）：△7%
 DARTs（先物）：+5%

17

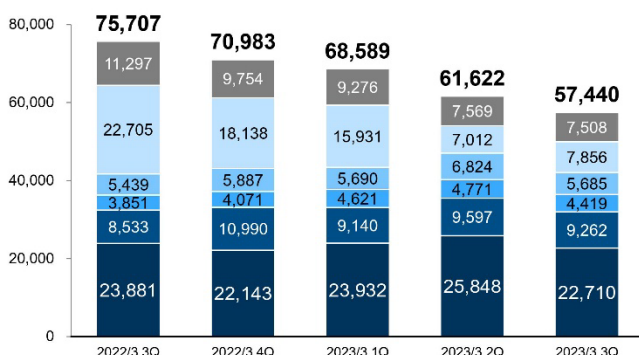
次に、米国セグメントの収益でございます。

米国の金利上昇に伴いまして、上から2段目の金融収支が米ドルベースで28%増加いたしました。一方、ボラティリティ、VIXは増加したものの低調な相場で株式とオプションの取引が減少したことから、委託手数料ならびにその他の受入手数料は減少しております。その結果、営業収益全体では前四半期比ほぼ横ばいの6,500万ドルとなっております。

米国：戦略転換に伴う退職金などの一時的な費用がなくなり、費用を適切にコントロール。

■販売費及び一般管理費 5四半期推移

（千米ドル）



販管費合計 △6.8% (△4,182)

※カッコ内は前四半期比増減額（千米ドル）

- その他 (△61)
- 広告宣伝費 (+843)
- 減価償却費 (△1,139) ※1
- 通信費・運送費・情報料 (△351)
- 支払手数料・取引所協会費 (△336)
- 人件費 (△3,138) ※2

※1 一部オフィス閉鎖に伴うリース資産の加速償却分を減価償却費として2Qに計上。

※2 2023年3月期2Qに、退職金2.1百万米ドルを計上。
従業員数（3ヶ月平均）707名 → 661名（2022年12月末時点：660名）

18

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

次に、米国の費用でございます。

米国セグメントの販管費ですが、前四半期 8 月に人員削減を実施しております。これは戦略転換に伴うものです。したがって、その前四半期比に人員削減に伴う退職金が計上されておりましたが、当四半期はその計上がなくなっていることもございまして、販管費全体は前四半期比約 7%減の 5,744 万ドルに抑制できております。

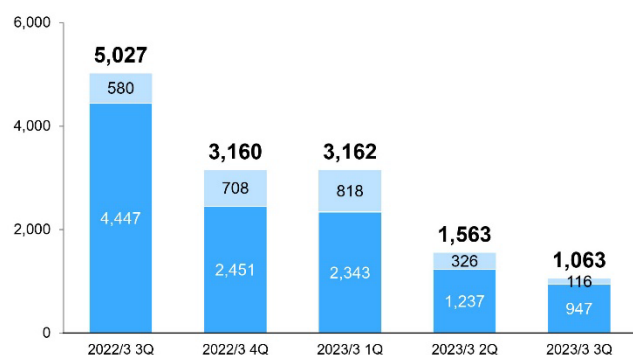
前四半期比（3ヶ月）収益増減分析

MONEX GROUP

クリプト：暗号資産市場低迷により取引量が減少したため、トレーディング損益が減少し、収益全体も減収。

■金融費用及び売上原価控除後営業収益 5四半期推移

(百万円)



金融費用及び売上原価控除後営業収益 $\Delta 32.0\%$ ($\Delta 500$)

※カッコ内は前四半期比増減額（百万円）

- その他 ($\Delta 210$)
- トレーディング損益 ($\Delta 290$) ※

※	販売所売買代金
2023年3月期 2Q	352億円
2023年3月期 3Q	276億円

19

最後に、クリプトアセット事業セグメントでございます。

暗号資産市場が引き続き低迷しており、価格も低下している状態でございますため、取引量、取引金額ともに減少し、トレーディング損益は減収となっております。

NFT 市場も低調だったため、その他の収益も減少しており、これらの結果、営業収益は前四半期比 32%減の 10 億 6,300 万円となりました。

サポート

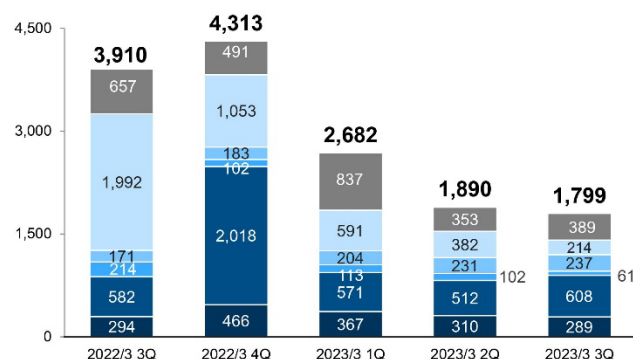
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



クリプト：市況に合わせてさらに広告宣伝費を抑制し、販管費を削減。

■販売費及び一般管理費 5四半期推移

(百万円)



販管費合計 △4.8% (△91)

※カッコ内は前四半期比増減額（百万円）

- その他 (+36) ※
- 広告宣伝費 (△168)
- 通信費・運送費・情報料 (+6)
- 支払手数料 (△42)
- 人件費 (+97)
- システム関連費用 (△20)

※ De-SPACに係る専門家報酬214百万円 (+47) を含む

20

クリプトアセット事業セグメントの広告宣伝費、厳しい市況に合わせて、広告宣伝費を前四半期から44%さらに削減しております。その結果、販管費は4.8%減の17億9,900万円となっております。

なお、一番上のその他の中に、De-SPAC 上場に係る専門家報酬が、当四半期では2億1,400万円計上されております。

このクリプトアセット事業セグメントでは、コストをできる限り抑制し、低い固定費で事業運営をできる体制に努めておりますけれども、昨今、収益の落ち込みの影響が大きく、前四半期に引き続き営業損失になっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

株主還元の方針と実績

■株主還元に関する基本方針

自社株取得の進捗については、昨年12月末迄に27.0億円（6.3百万株）分を取得。2023年1月実施分以降の進捗については当社プレスリリースを参照。

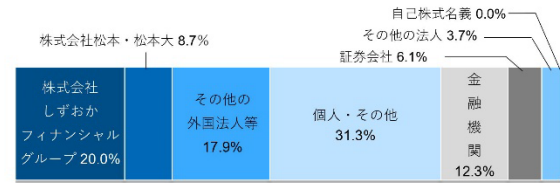


成長領域への投資や事業基盤の強化を適正かつ積極的に推進しつつ、株主の皆様への利益還元をバランスよく実施することで、更なる企業価値の持続的拡大およびTSR※の向上を目指す。1株あたりの配当金を半期7.5円以上として安定的な配当を行うとともに、経営判断に基づき機動的に自社株買いを行う。

※ TSR (Total Shareholder Return (株主総利回り)) = (キャピタルゲイン (株価) + 配当) : 投資額

主要株主・株式の分布状況、一株当たりの指標

■主要株主および株式分布状況 (2022年9月末)



※2022年9月末基準日の株主名簿をもとに当社作成
 ※発行済み株式総数 (2022年9月末) : 267,447,100株
 ※静岡銀行は2022年10月3日、持ち株会社体制に移行し、当社株式は、新設された株式会社しずおかフィナンシャルグループに同日付で承継されました。

■一株当たり指標

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期3Q
一株当たり親会社所有者帰属持分(BPS)	297.28円	297.70円	347.67円	391.64円	379.65円
親会社所有者帰属一株当たり当期利益(EPS)	4.42円	11.59円	55.82円	50.00円	9.69円※
親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)	1.5%	3.9%	17.3%	13.4%	2.5%※
一株当たり配当金	5.4円	5.9円	12.0円	15.3円	7.8円

※ 2023年3月期3Qの数値に4/3を乗じた年換算数値を記載。

29

最後、29 ページ。

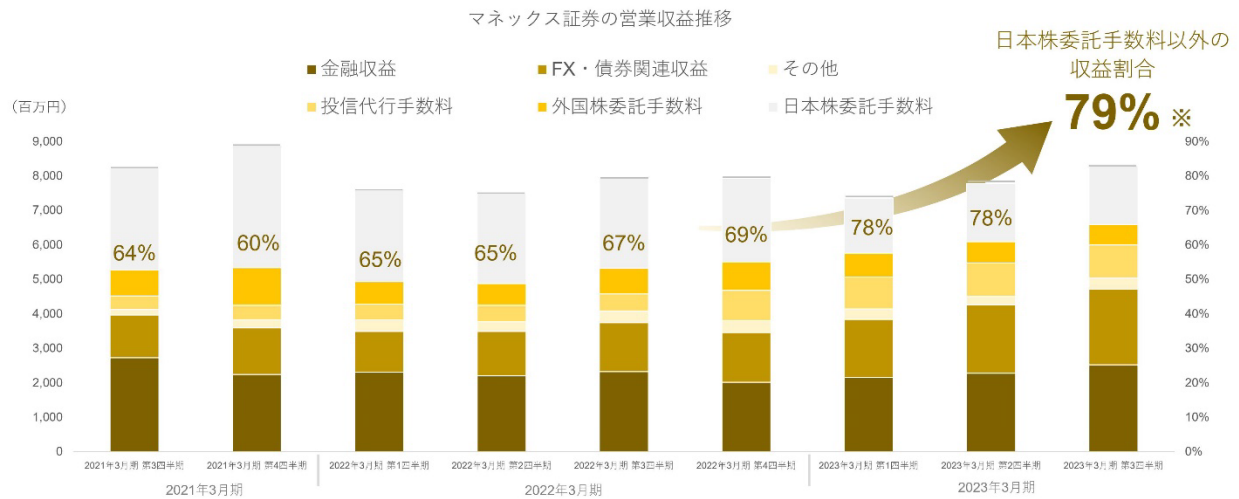
昨年11月から自社株買いを進めております。上限で言いますと50億円または1,250万株で進めておりますけれども、12月末時点では27億円相当、630万株ほどの自社株買いを実施しております。今後も進捗につきましては、プレスリリースにて開示してまいります。

以上、私からのご説明でございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

マネックス証券は日本株委託手数料以外の収益を伸ばし、収益基盤が多様化。

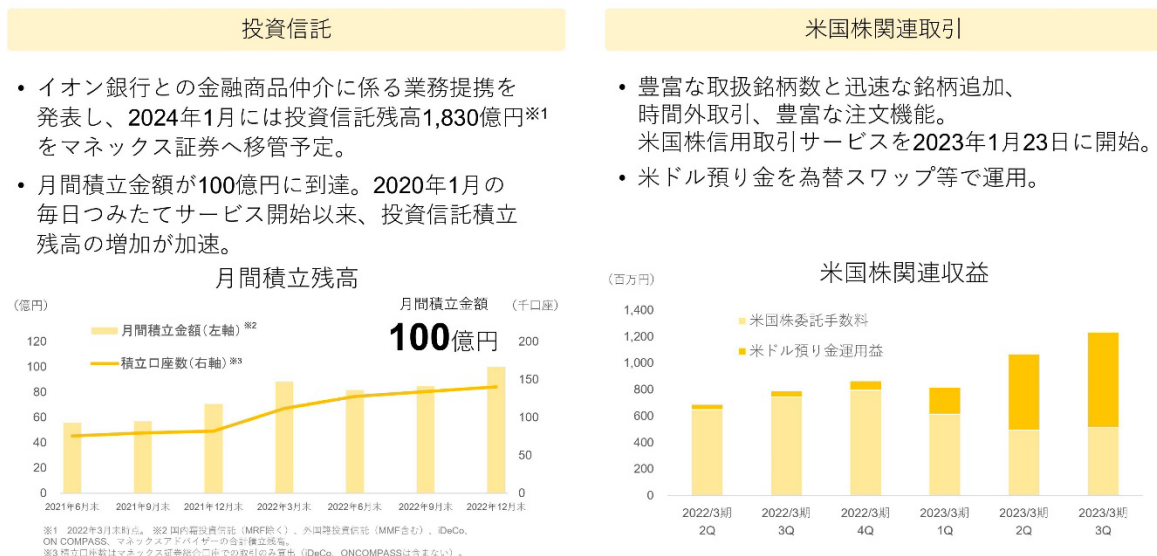


32

松本：それでは、引き続き私からビジネスについて、ちょっとかいつまんでお話しします。

日本アセマネモデル化が進んでいることで、日本株委託手数料への依存度が20%程度と、順調にそれ以外の部分を大きくしています。

投資信託は積立サービスが拡大。米ドル預り金運用により米国株関連収益は増加。



33

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

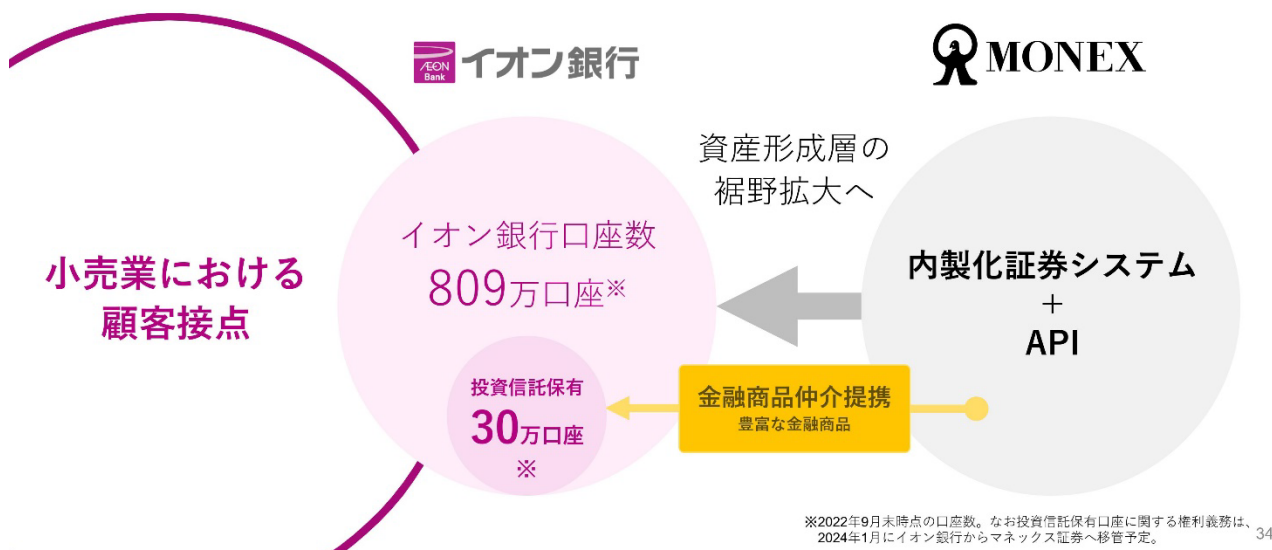
次、33 ページ左下にありますように、積立投信はやっぱりアセマネモデル化を進める上では大変重要ですが、こちらが順調に増えてきており、月間で 100 億円を超えました。

また右にありますように米株ビジネスはこの相場の中で、売買量は減ったのですが金利の部分でそれを上回る収益を上げている形になっています。

ビジネスアップデート 日本セグメント 3/5

MONEX GROUP

イオン銀行との金融商品仲介連携により「貯蓄/消費から資産形成」への流れを促進。



あと 2 週間ほど前、発表しましたイオン銀行との連携。

ここにありますように投資信託保有口座は 30 万口座ですが、イオン銀行口座は 809 万口座。さらに小売業としてのイオンさんの膨大な数のお客様がいらっしゃって、当社グループとイオングループが連携することで貯蓄から投資へと。あるいは政府が推進している資産形成層の拡大にしっかりとわれわれが機能していくと。このアセマネモデル化を推進している一つの大きな内容になります。

こちら、去年 3 月の段階の数字になりますけど、1,800 億円程度の預かり資産の移管になります。

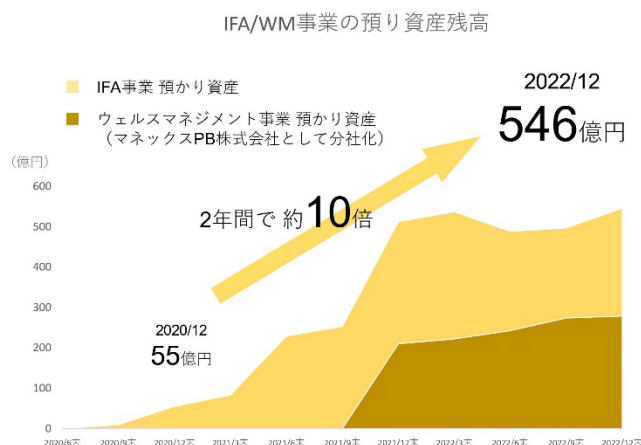
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



IFA/ウェルスマネジメント（WM）事業は順調に成長。預かり資産は約550億円に。

専門会社を設立し、WM事業をさらに強化へ



- ・ マネックス証券では2020年にIFA事業、2021年にWM事業を開始。過去2年間で両事業の合計預かり資産は約550億円に。
- ・ 10月からWM事業をマネックスPB株式会社（WM専門会社。MPB）に移管。MPBは11月に名古屋オフィスを開所。
- ・ 静岡銀行とWM事業での協業も開始予定。同領域における他地銀との連携も追求していく。今後はWM事業やIFA事業を核に、アセマネモデルをさらに進化させていく。

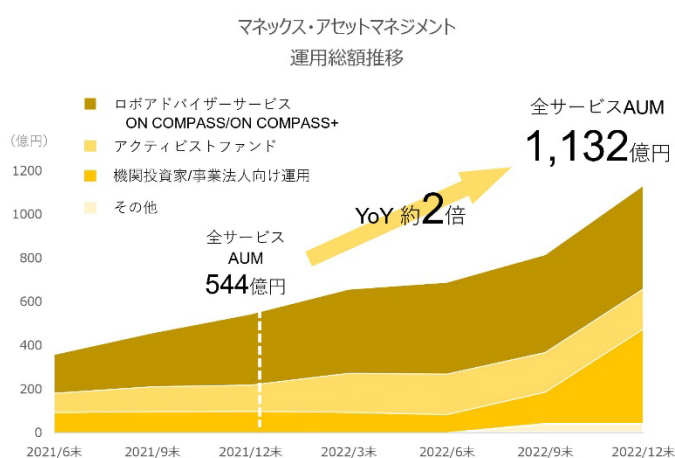
35

35 ページ、IFA とかウェルスマネジメントビジネス。

これはマネックス PB という富裕層向けの、従来マネックス証券の中に PB 事業部という形でやってきたんですが、これをマネックス PB 株式会社として分社化した形。この富裕層、準富裕層向けのビジネスも着実にグラフで見ると分かりますように、伸びております。

アセットマネジメント事業の運用総額は1,100億円を超過し、順調に成長。

全サービスの合計AUMはYoYで約2倍に成長



ロボアドバイザーサービスAUM
473億円 (YoY 1.5倍)

ゴールベースアプローチを採用した投資一任型運用サービス（ロボアドバイザー）。静岡銀行を含む金融機関との連携強化など、B2B2C戦略により着実にAUMを拡大。

機関投資家／事業法人向け運用
432億円 (YoY 3.4倍)

地方銀行などの金融機関を含む機関投資家から資金を預り、マネックス・アセットマネジメントが運用。

36

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

また、マネックス・アセットマネジメント株式会社も、順調にアセットが積んでおりまして、YoYで2倍を超える成長になっております。特に地方銀行を中心とした、金融機関等向けのビジネスが大きく伸びているところでございます。

こちら、イオンとの連携、IFA、ウェルスマネジメントの伸長、そしてマネックス・アセットマネジメントの伸長と、これら全てアセマネモデル化がしっかりと進んでいる、取り組んでいる結果になっております。

ビジネスアップデート 米国セグメント 1/3

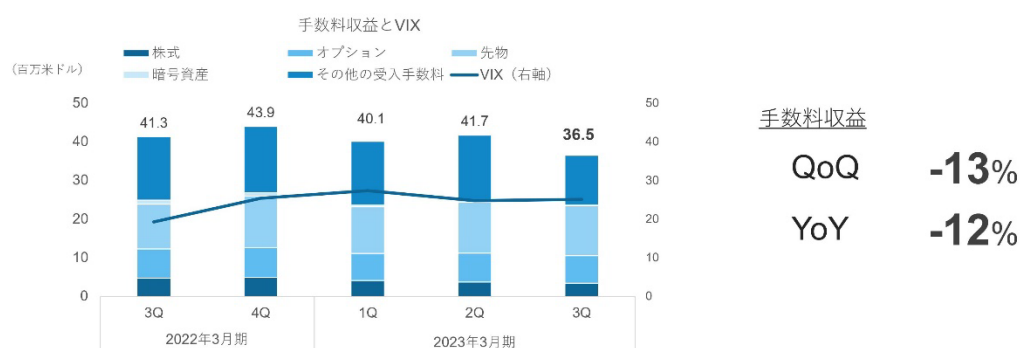
MONEX GROUP

VIXは高水準で推移し、先物取引は好調。

下げ相場の影響で株式取引の減少によりその他の受入手数料が減少。

手数料収益とVIX（ボラティリティ）の推移

高いボラティリティ水準により、アクティブトレーダーによる先物取引は好調に推移。
オプション取引はわずかに減少するも安定的に推移。株式取引の減少によりその他の受入手数料全体は減少。



37

アメリカにつきましては、VIXは高かったけれども株価が下がった状況なので、結果として先物は好調だけれども、株式はいまいちちょっと下がった感じになっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

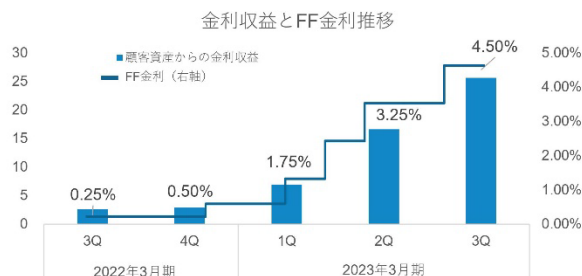


米国金利が上昇し、顧客預り金からの金利収益が大幅に増加。

顧客預り金からの金利収益の推移

トレードステーションにおいて、顧客の米ドル預り金を運用した金利収益は自社に帰属し、金融収益として計上される。2022年10月より、現金残高が10万米ドル以上ある顧客には、金利収益の一部を還元。

(百万米ドル)



顧客預り金からの金利収益

QoQ **+9.0**百万米ドル
YoY **+23.0**百万米ドル

38

しかしながら、38 ページにありますように、フェデラル・ファンドレートが上がるとか、そういったことで金利上昇を背景に大きく金利収益が増えておりまして、QoQ でも 900 万ドルの増加。YoY だと 2,300 万ドルですから、30 億円以上の金利収益の増加になっております。

1Qまでの顧客基盤拡大から戦略を転換し、アクティブトレーダー層に最適な取引体験の提供を通じて、顧客ロイヤリティ向上と取引活性化によるLTV (Life Time Value) 向上を目指す。

中長期戦略

カジュアルトレーダー層獲得から戦略を転じ、アクティブトレーダー層に集中。収益性の向上を目指す。

- 洗練されたアクティブトレーダーや投資家をターゲットにしたセールス&マーケティング戦略
- 質の高い、世界最高水準のカスタマー・エクスペリエンスの提供
- トレードステーションの強力なトレーディングツール、分析ツールの活用と発展
- 強固なAPI技術を活用し、サードパーティの革新的な取引・分析ソリューションへのアクセスを提供

戦略的な差別化要因

- 1 レピュテーション
- 2 マルチアセットクラスの提供
- 3 分析/カスタマイズ
- 4 取引の質
- 5 競争力のある価格設定
- 6 顧客サービス
- 7 教育

39

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

トレードステーションにおいては、アクティブトレーダーを追い掛けるビジネスモデルは、お客様の単価が高いけれども短く口座が終わってしまう、FXに近い形になるんですね。その究極の反対側にあるのは銀行的モデルで、お客様の単価は低いけれども、ずっとお客様でいると。

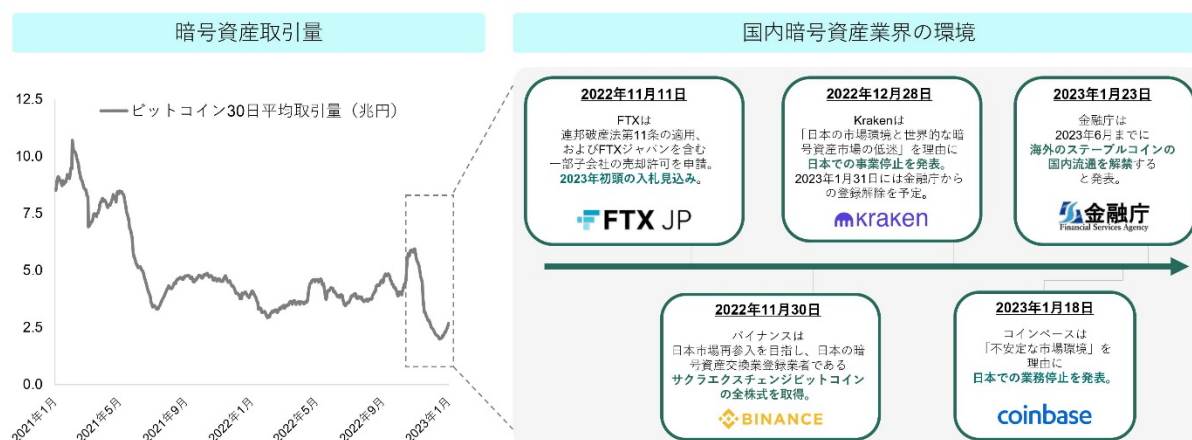
この間というか、トレードステーションにおいては得意であるアクティブトレーダー向けにサービスを提供し、顧客単価が高く、かつどこにも負けない素晴らしいアクティブトレーディングの体験を提供することで、そのお客様が楽しいので残るということと、いいリスク管理ツールとかを提供するのでお客様が損をしないで続けられる。アトリビューションレート低く抑えると。

そういうアクティブかつ長くユーザーとして続けてくれるようなことを推進することで、お客様のアカウントのライフタイムバリューを上げるのが、このトレードステーションの今の戦略になっております。

ビジネスアップデート クリプトアセット事業セグメント 1/5

MONEX GROUP

暗号資産業界はマクロ経済環境や暗号資産市場の影響を多分に受けるものの、コインチェックはその中でもサービスラインナップ、規制遵守、信頼性において非常に優位な立場に。



※データ引用：CoinMarketCap。上図数値は、米ドル建て取引量を2023年1月26日の米ドル/円為替129.61円を使って円換算しています。

40

次に、クリプトアセットビジネスです。

まずこの左がビットコインの取引量になるんですが、FTXの問題とかで大きく下がりました。当然その結果、コインチェックにおいても取引量が大きく下がっている。

ただ一方で、右にあるように、FTX、Kraken、コインベースという外資系がみんな撤退をしていくと。バイナンスは一方でリエントリーをしようとしているわけですがけれども、基本は外資系が出ていく。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



一方で、金融庁は、ステーブルコインの国内流通を解禁するとか、あるいはご存知のように自民党等が中心になってデジタル庁とか、web3 周りは、世界中のレギュレーターが今、腰が引けている中で、もしかすると日本は先進国の中で唯一、web3、ステーブルコイン、暗号資産といったものを推進しようとしているわけですね。そういう状況。

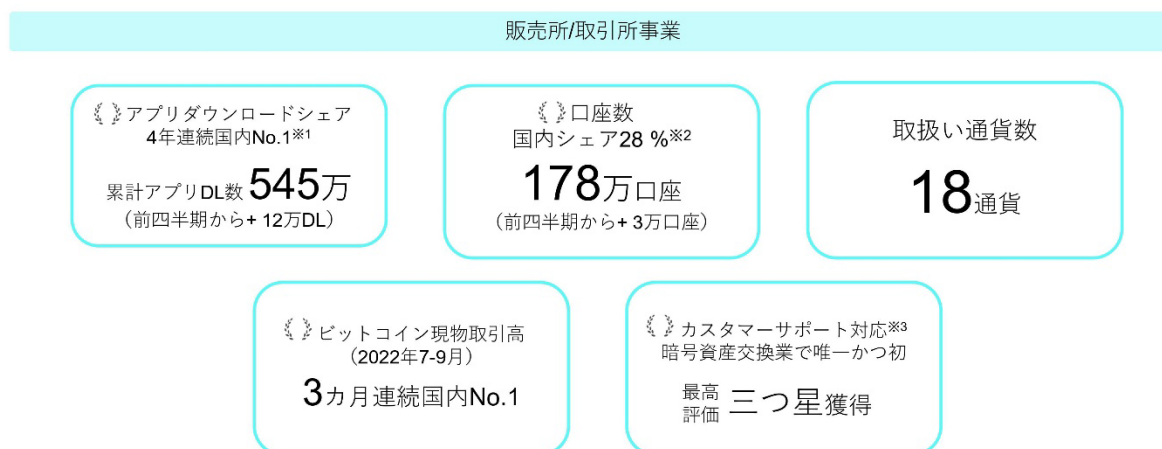
マーケットは一旦静かになっていて撤退する人もいますと。特に業界は単品で、クリプトのみをやっているクリプト業者がほとんどなので、クリプトで活気がちょっと減ると収益が減って続けていられなくて撤退とか、あるいは店を閉じる、ビジネス自体やめることになる。

われわれはグループでやっているの、そういった中でも、もし投資妙味があるならば引き続き投資をすることができて、かつ今ここで説明しているように、特に日本においては外資は撤退していく。一方で、金融庁、政府は暗号資産、web3 周りは推進しているところにあるので、われわれはここでしっかりと投資をして、リターンを取っていきたいと考えています。

ビジネスアップデート クリプトアセット事業セグメント 2/5

MONEX GROUP

国内暗号資産交換業者として、4年連続アプリダウンロードシェアNo.1。



※1 国内の暗号資産交換業者 期間：2019年～2022年 データ協力：AppTweak ※2 2022年11月末時点。JVCEA1部会員33社中。JVCEA: <https://jvcea.or.jp/about/statistics/>
※3 HDI-Japanが主催するHDI格付けベンチマークの「クオリティ格付け（メール窓口）」において。

41

41 ページは、販売所/取引所事業がどういう状況かというご案内になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



コインチェックはデジタル経済圏の創出および中長期的な収益多様化を目指す。



じゃあ何をやっているかというと、42 ページの一番上にある販売所、取引所が今までのコインチェックです。

それに加えて NFT だとか、IEO だとか、あるいは法人の中でもどうやって暗号資産投資が始められるかとか、会計どうなっているんですかとか、あるいは NFT どういうふうに使えるんですかとか、そういったご質問も多くいただいています。そういうことにしっかりとお答えしていく法人向けのサービスを始めています。

あるいは web3、メタバース。Oasis シリーズでメタバース空間を開発したりとか、広い領域で、仮想通貨のトレーディングだけでなく web3、ブロックチェーン、広い領域でわれわれはビジネスを展開しています。展開しながらコストを抑えて、しっかりと風が吹くときに大きく先へ進められるビジネスを作っています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

コインチェックグループ（CCG）※1は、上場に向けた手続きを推進中。

グローバルな人材や事業機会を確保するため、ナスダック上場を目指す

- ナスダックに上場しているThunder Bridge Capital Partners IV, Inc.（THCP）と合併することで、CCGはナスダック上場を目指す。
（BCA契約※2は2023年7月2日まで有効）
- CCGは、THCPとの協働により米ナスダックへ上場することで、グローバルな投資家へのエクスポージャーを獲得。グローバルな人材採用や企業買収を行う上でも、採用通貨・買収通貨として世界的に有効な米ナスダック上場株を活用することができるため、暗号資産事業のさらなる拡大を目指すことが可能に。

※1 コインチェックの持株会社を新設。

※2 Business Combination Agreementの詳細： https://www.monexgroup.jp/jp/news_release/irnews/auto_20220309503074/pdfFile.pdf

43

43 ページ、コインチェックの De-SPAC を活用したナスダック上場プランです。

コインチェックの上に作ったコインチェックグループ、オランダの法人が、アメリカナスダック上場の THCP と合併することでのナスダック上場を進めております。

こちらは着々と進んでおります。これ FTX のこととかあってびっくりされるかもしれませんがけれども、今のところ着々と進んでおり、われわれとしては、コインチェックという会社はかなりの利益を出せる会社なので、資金調達というよりはこの web3、暗号資産はやっぱりグローバルなビジネスになるので、グローバルにコインチェックグループを展開していきたいと。

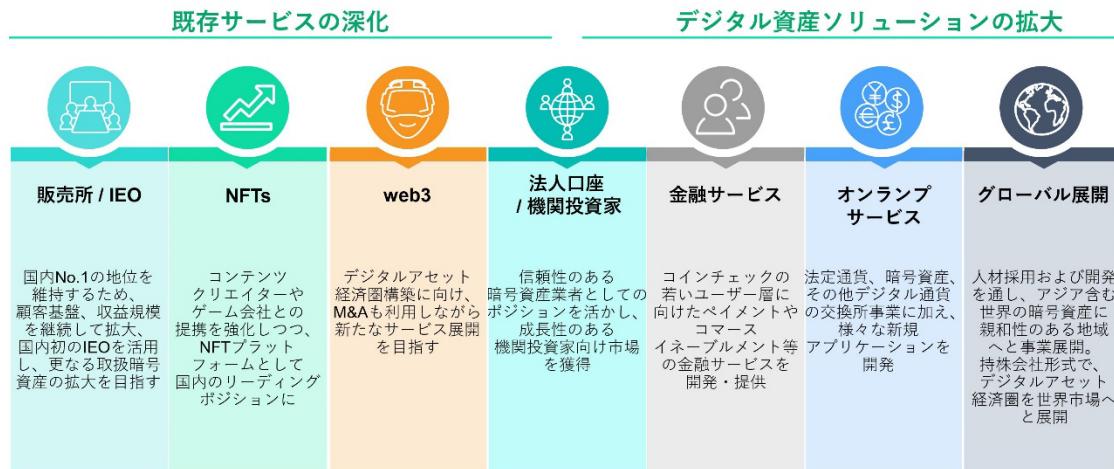
その場合に人材やビジネスを買っていく、採用していくときに、やはりアメリカナスダック上場株というものが買収通貨としても採用通貨としても力強いので、それを手にしたいということでこのプランを進めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



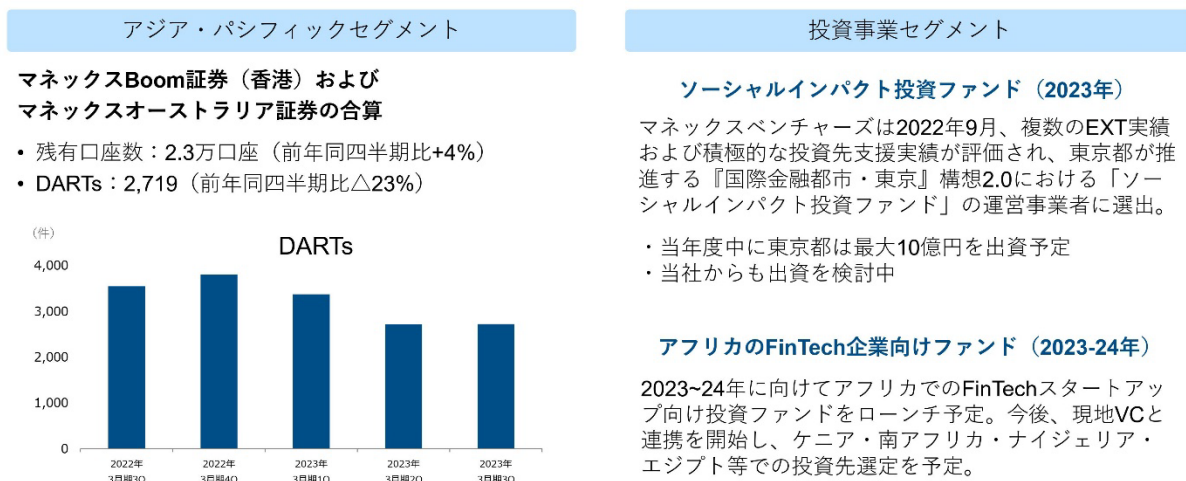
オーガニックグロースやM&A、他社との提携によって多くの成長機会を創出。



44

44 ページは前からご案内している、じゃあ実際、具体的にどういうことをやっていくかという簡単な内容になります。

投資事業セグメントでは、マネックスベンチャーズが東京都公募のソーシャルインパクト投資ファンドの事業運営者に選定された。



45

アジア・パシフィックはご説明する内容があまり大きくないのでなくて、投資セグメントについては、先ほど評価損が発生したことにつきましては清明からご案内をさせていただきました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

個人の生涯バランスシートの最良化を目指す企業理念のものと、新規事業を推進。

教育事業（STEAM教育・バイリンガル教育）



株式会社ヴィリングは、STEAM教育の民間教育施設を運営。



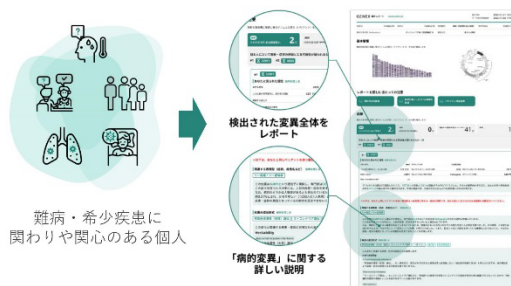
株式会社Selan（2022年11月よりグループ参画）は、バイリンガル講師による自宅英語学習サービス「お迎えシスター」を運営。

ゲノムプラットフォーム事業

ジネックス株式会社は『全ゲノム検査』サービスを提供開始

～難病・希少疾患に不安を抱えるあなたとあなたの大切な人へ～
サービス開始記念 先着100名に39,800円（税込価格 43,780円）で
提供開始（2022年12月22日から）

ジネックスの全ゲノム検査レポート



46

46 ページ。21 年、2 年前の 4 月に企業理念を、金融だけじゃなくて「個人の生涯バランスシートの最良化を目指す」のが我々のコーポレートミッションであると謳ったわけですが、その中で STEAM 教育とかバイリンガル教育とかも重要であると。あるいは難病患者の方をサポートすることも重要であるということで、コストをしっかりとコントロールしながら、このような教育事業とか、ゲノムプラットフォーム事業を展開している次第であります。

ESG課題に取り組む体制を継続的に強化し、サステナビリティ経営を推進。

マテリアリティの重要項目における取組みを着実に推進

グループ各社でDEIを推進

- ・ コインチェック 「ウェルビーイング室」新設
→多様性を受容する企業文化醸成、
「人材の価値」を最大化させることにコミット
- ・ DEI（LGBTQ+含む）に関する各種アワード受賞
→当社・マネックス証券：PRIDE指標2022シルバー
→コインチェック：第9回ホワイト企業アワード
「ダイバーシティ&インクルージョン部門」



重要規程・方針の改定、
人的資本・イノベーションの開示充実

- ・ 行動規範、人権方針、環境ポリシーの規程を改定
→腐敗防止への体制整備
→人権への更なる配慮を本業に取り入れる
→温室効果ガス排出量の削減に努力
- ・ 人的資本の開示充実
→既の開示のグループ従業員数に加え、
女性従業員割合、女性管理職割合等を追加開示
- ・ イノベーションの開示充実
→当社のイノベーションにおける4つの特徴（先見性、リスクテイク、バリューアップ、企業文化）を活かして、常に変化する未来に向けた成長を目指す

47

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



あと、DEI につきましては、コインチェックの中にウェルビーイング室を作ったり、いろいろな受賞もしています。グループ全体で真剣に取り組んでおりまして、評価会社のスコアリングもかなり良くなって、たぶん、業界の中だと一二を争う形だと思うんですけども、いいところになっています。

また、人権規定も含めて、様々な形でのサステナビリティ経営を、言葉だけじゃなくて、しっかりとグループの中で実践をしているところがございます。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



質疑応答

松本 [Q]：では、簡単にご説明をして、事前にご案内しているよりも 5 分間長くなりましたけれども、残り 25 分間ありますので、ご質問にお答えしてまいりたいと存じます。チャット盤にぜひご質問ください。

まず、SMBC 日興の原さんから 3 問いただいておりますので、それについて回答してまいりたいと思います。

まず 1 番。日本の金利変動に対する PL の感応度について、金融政策の変更が市場に期待されている状況かと思いますが、信用取引など影響が見込まれるものを教えてください。

清明 [A]：これは、実は信用取引につきましては、その金利は過去、金利が下がってきた中でそれに連動して下がっていないんですよ。これは当社だけではなくて他社もです。一方で、調達側もそんなに変わっていないのがあるので。今後の状況次第でももちろん変わりうると思いますけれども、ちょっと今、想定されるものはないと。

松本 [A]：あんまり影響はない。ちょっとプラスだと思います。基本はスプレッドなので、マーケット金利はあんまり関係ないんですけども、一般信用の部分で、貸株の中で減反とかで安く仕入れるお金の分に対して貸せる金利が上がるから、たぶんちょっとだけ上がる感じ。

清明 [A]：あとは、当社の場合、お客様の預かり金が多くは MRF です。今 MRF がマイナスなので、その分のコストは当社で負担している形になっていますけれども、この辺りが上がってくるとプラスに働く、コストが下がってくるかなと思います。

松本 [A]：2 番。投資事業の損失について、複数の投資先におけるダウンラウンド調達の評価損とあるが、世の中のバリエーション低下によって今後もある程度、継続的に発生する現象なのか。御社の持分ベースでのエクスポージャーは全体でどのくらいあるのか。

全体で持分ベースでいうと、60 億円強。65 億円ぐらいある状況です。ただ、もともとの簿価は 35 億円、そんなもんなのですけれども、評価益が乗っている状況であると。これはある意味、相場なので分かりませんが、12 月末の段階で評価替えをしていて、世の中全体見ると 1 月からはビットコインとかも上がってきていて、若干リスクオンになってきている状況に見えるので、もちろん将来のことは分かりませんが。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

でも、ダウンラウンドしていないと評価損が見えてないものがあるかもしれませんが、基本的にはしっかりと、だいたいマーク・トゥ・マーケットされていて、ここからはマーケット次第ですけれども、ベンチャー企業の株なので、そんなに全ての影響を受けるわけでもないで、そんなに大きなリスクがあるとは認識しておりません。

3 番。新体制から松本さん、清明さんはそれぞれどのような分野に注力して経営に取り組まれるのかということです。

清明からもコメントがあると思いますけれども、先ほど申し上げましたように、定時株主総会後から、英語で言うと清明が CEO、私が Executive Chairman なので、海外の企業の例なんか考えても、Executive Chairman と CEO という、それぞれの役割分担があつて。でも、二輪となってやっていくイメージだと思います。

ただ私は、Executive Chairman、あと代表執行役会長の仕事のほかに担当執行役として、エンゲージメント運用などの運用の部分と、アセマネ事業自体を大きくしていく部分と、あとコインチェックをグローバル化する部分と、この二つは、代表執行役会長、Executive Chairman という職以外に担当執行役としてしっかりと取り組んでいく予定になっております。今もやっているわけなんですけれども。

何か付け足すことありますか。

清明 [A] : 特にございませんが、2019 年からマネックス証券の社長、それから昨年 4 月からグループの Co-CEO をしてございます。そういう意味ですと何か大きく変わるものではなく、引き続き、これまでマネックス証券社長とかになる前は、松本 1 人がビジョンを描き、それを私がどちらかというエクスキュージョンする、ビジョンに基づいて戦略を考えて実行するという感じの認識をしていたんですが、4 年ほど前からは、一緒に分けてビジネスを作っていこうという感じですので、その延長かなとは思っております。

松本 [A] : 若干宣伝になりますけれども、東証プライム、旧東証一部上場企業の中で、女性が創業者とか創業ファミリーではなくて、キャリアで上がっていった CEO になるのは、たぶん今の日本で清明以外にいないんじゃないかと思われて、これ 2000 社から全部調べるわけにもいかず、でも調べる限りではどうしても見つからないので、一応そんな感じで進んでおります。

逆に言うと、それがどうこうというよりも日本は大変遅れているなという感じはするのですが、そんな感じで進んでおります。

UBS 証券、岡田様、2 問いただいております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



1 番、マネックス証券に次いで 23 年度上期に、競合証券が国内株委託手数料無料化を実施予定です。今後の手数料戦略の考え方を教えてください。日本株手数料への依存低下により、さらなる手数料引き下げの条件が整ってきているのか。

清明 [A]：今後の手数料戦略につきましては、何かを決めたタイミングしっかり発表するということだと思っております。

後段の、もともとこういった形で手数料が下がってきていた環境は、別に今に始まった話ではなく、2019 年にアメリカでゼロコミッションが出てきて、そこからも日本においても日本もそっち側に進んでいくんだみたいな風潮もございました。そういったのもありまして、アセマネモデル化を進めよう、日本株の手数料依存度が高かったのが課題なので、それを相対的に下げていこうと進めてきました。

そういった意味では、順調に想定どおりにほかの収益が伸び、日本株手数料の依存度が下がってきておりますので、選択の余地、今後の戦略を考える上での選択の幅は広がっているのは事実だと思っております。

一つの手数料戦略につきましては、様々な環境、それから条件、そしてお客様の反応。もともと私どもはシステムを内製化していて、手数料戦略だけではなくてサービスでも優位性あるものを提供できていると思っております。これらを組み合わせてこういった付加価値を提供していき、その付加価値に対してこういった形で対価をいただくかを引き続き考えていきたいと思っております。

松本 [A]：同じく岡田さんからですね。2 番目。自社株買い資金使途について。昨年 11 月の自社株買い実施の背景をあらためてご説明いただけますか。今後の資金使途の優先順位はどのように考えていますかということです。

特に後半は清明からがいいかもしれませんけれども。

去年 11 月の段階では、FTX のこととかがあって、当社の株価とかがかなり売られる局面もあり。今日しっかり説明を発表しているように、FTX 絡みのダメージは、マーケットが静かになったものを除いて一切ないと、当社グループには。

貸し出しであるとか FTT だとか、いろんな全部含め何もないという中で、かなりというか、われわれの状況が健全であることが分かっているけれども、マーケット的には、FTX とかのことで全部、一緒くたに売られるところがある中で、これはさすがに当社の株は安過ぎるという考えもあり、われわれとしてマネージメントのメッセージも含め、あの段階で自社株買いを発表させていただいたと、で、今実施中であるといった形になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



資金使途は、当社は新しい事業に対する買収も含めた投資が歴史的に見て、とても成績が良い会社であって、そういった新しいものに対する投資と、今あるビジネスに対する追加投資と、株主の方に対する還元と、それらのバランスを考え、かつ、その時点での投資機会とか、あるいは株価に応じていろいろなムービングピースがある中で決定をするということです。だから、必ずしも簡単に優先順位が付いているわけではなくて、状況に応じるわけなんです。

清明 [A]：まさにそうですね。そういった意味ですと、株主還元方針が変わっているわけではなくて、私達は成長を求めていきたいと思っております。前回、この11月は、自社の株価を見てみますと、将来のほかの成長を取りに行くのと自社の成長で、自社の株を買おうということにいたしました。

今こういうマーケット、例えばクリプトも、非常に混乱していた。今もそうかもしれませんが、冬の時代なんかとも言われていますけれども、こういうタイミングは逆にビジネスチャンスもあると思っております。私ども、M&Aで成長してきた会社ですけれども、M&Aに限らず、新しい事業を考えられる俎上もありますので、そういった意味では様々検討していき、その都度、ROEももちろん意識しながら決めていきたいと思っております。

松本 [M]：質問が枯れてしまったんですけれども、何かご質問ございますでしょうか。まだ時間もあります。やっぱり、集まったほうがいいんですかね。

清明 [M]：どうなのでしょう。

松本 [M]：どうなのでしょうね。何かご質問ございますか。よろしいですか。なさそうですね。では、何か最後に。

清明 [M]：最後に。

松本 [M]：総括。

清明：総括です。ずっとここ最近申し上げている、日本は安定しておりますというのが、この第3四半期もしっかりと数字でお示しできたかなと思っております。米国につきましては、戦略転換すると言って数字を上げると申し上げまして、大きく営業利益上昇しております。

本来は、クリプトのマーケットがもう少し戻ってくればいいなとは思っておるんですけれども、こちらにつきましてはマーケットなので、なんとも読みづらいですけれどもしっかりやるべきことをやって、それらを合わせて企業価値を高めていくことを引き続きやっていきたいと思っております。よろしくお願いします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



松本 [A]：原さんから追加できたのでお答えします。米国やクリプトのコストマネジメントの今後の方針については。

米国は、今すごい感じなわけですね。かなりの黒字を出せている。いろいろ金利の見通しがあると思うんですけども、まだまだ短期金利は上がるでしょうし。ですから、いい追い風が吹いていると。

その中で当社としては、アメリカはとにかく、一昨年とか一旦赤字を出しているの、しっかりとコストを管理して、黒字をちゃんといっぱい取るのが基本的なアメリカのコストマネジメントの考え方です。

クリプトについては、今赤字ですので、赤字ということは、コストは投資をしているのと同じなわけですね。コストマネジメントというよりも、今赤字で払っているお金、投資額、その投資に見合うリターンがあるのか。あるいは将来のリターンに見合った投資額なのかという、クリプトについては普通のコストマネジメントとは違う考え方をしなければいけないと思っております。

そこで世界の状況、日本の状況とかを見ながら、どれだけわれわれコインチェック、コインチェックグループにオポチュニティーがあり、収益の機会とその期待値があるのかを、しっかりと今、精査というか計算しており、その現在の価値よりも小さい投資額じゃないと意味がありませんから。そういった考え方で管理をしています。

ですから、ちょっと米国とか日本セグメントのコスト管理の仕方とは違う。クリプトに関しては投資であると。投資でちゃんと見合いますかという考え方で管理をしようとしているところであります。

あとご質問ないので、私からの総括と言っても特に。全部語ってしまったわけなんですけれども。

ポートフォリオ全体として、かなりバランスがいいと思うんですね。大きく今、延びているアメリカ、安定的で重要なアセマネモデル化を着々と進めている日本、そしてアップサイドのあるクリプト。

そういう、いい事業ポートフォリオのバランスであり、今日ご説明したような経営体制もしっかりと、永続的に新しい環境に対応できる経営体制をしっかり準備して実行しており、またそれらをサポートしていくサステナブル経営も人的資本の部分であるとか、ちゃんとやっている。グループ、会社全体としても創業してから24年なので、ベンチャーでもなんでもないんですけども、かなりバランスよくしっかりとってきていると思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



投資家の方、株主の方から見て、バランスが良くてリスクリターンの投資対象となるように、さらに経営をしてまいりたいと考えております。

追加でご質問がある場合には、IRにご質問いただければお答えしてまいります。

それでは、本日はありがとうございました。

清明 [M]：ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

